

子供たち

私達には子供が二人しか居ない

同級生の中には四人・五人と居る人がいる。中には五人も居て、末っ子が小さいときに亭主を亡くし立派に育て上げた人も居る。

知り合いに子供一人を亭主亡きあと、二人を大学まで小さいときより育て上げ、そのうえ土地を求め立派な邸宅を建てた人がいる。二人とも世帯を持たせ、自分は老後を悠々自適と一人楽しんで居る。

私達は子供が二人生まれてから、三人目は産まなかった。あの当時は生活があまり楽でなく、二人以上育てる自信が無かったからだ。妻は女の子が欲しかった様だったけれど、今思えばやはりもう一人くらい居ても育てられたと思う。女の子が産まれるとは限らないが。

私達は子供達に、あの当時としては充分お金をかけた。幼稚園はあの当時一年保育がほとんどだったけれど、二人とも二年保育に通わせ、音楽教室や、算盤、書道の教室など習わせた。

あの当時はあまり生活が楽でなかったのに、と思い出させられる。小学校、高校まで音楽教室を続けさせ、ボーイスカウト（小さい時はカブスカウト）、の全国組織に入れた。



上の学校に入った時、音楽を習わせて貰って本当に役に立ったと話していた。今でもあの言葉を思い出される。

今は時代が違うから比べるのがおかしいが、子供たちは親が心配しなくても、二人で行動していた。カブスカウトに毎週日曜には、二人揃って徒歩、市電、乗換えなどあの混雑の中を八幡町まで仲良く通っていた。ボーイスカウトになって、日本ジャンボリーには二人して参加したし、洋一は選ばれて世界ジャンボリーにも参加した。

あの時代は私たちの生活はあまり良くなかった。知らない土地に田舎から出てきて、商売を始めても、知れたものである。だが子供たちは伸び伸びと育ったようだ。実は、子育てを考えて接したのではなく、ホッたらカシであった。仕事に精一杯であったから、無理もないことである。

親に似ない子は鳥流し、鬼っ子と言っが、私に似たらどう育ったのだろうか。意志が弱く、変にいじけた子だったろうか、母親に多く似たのだろうか。

もっと働けばよかった。もっと老後の事を考えて生きてくれれば良かった。子供の事以外は失敗だらけであるが、人生は一度だけである。もう後戻りは出来ない、よき妻、そしてよき子供に恵まれた事を考えれば、私は幸せなのだろう。